

2014年度から国際関係学部の学びがさらに多彩に広がっています。

現場学習プログラム

海外・国内フィールドスタディやボランティア、NGOインターンシップ、メディア制作、観光パンフレット取材編集など、さまざまな「現場」に出かけていき、そこから体験的に学ぶプログラムです。単に見学するだけでなく、自ら活動に参加することで、大学卒業後に求められる「社会人基礎力」を養うことができます。多くの卒業生がこのプログラムを活用して自らを鍛え、グローバルに活躍しています。



実践的英語教育を強化

ネイティブの教員が少人数クラスで英語教育を行うGTI(Global Teaching Institute)を活用して、英語の授業をより一層充実させています。また、東京国際大学アメリカ校をはじめとする海外留学を希望する学生のために留学準備のための英語クラスを、そして帰国後にはさらに英語力を高めるための英語クラスも用意しています。将来の進路としっかり結びつけた英語教育を提供します。



English Track Programを導入

国際関係学部は、英語による講義だけで学位取得が可能なEnglish Track Program(E-Track)を導入しました。受講に必要な英語力があれば誰でも、E-Trackの科目を履修できます。多様な価値観をもつ留学生とともに学ぶことで、英語力が向上することはもちろん、ものの見方や考え方の面でも大きな刺激になります。



世界の現実に触れ、
勇気と行動力を身につける。



国際関係学部 国際関係学科 / 国際メディア学科



東京国際大学

〒350-1197 埼玉県川越市市場北 1-13-1 TEL 049(232)1116

<http://www.tiu.ac.jp/> TIU 検索

TIUの新しい情報はWebサイトをご覧ください。

TOKYO INTERNATIONAL UNIVERSITY

「観光立国」プログラム始動

東京国際大学×JTB総合研究所

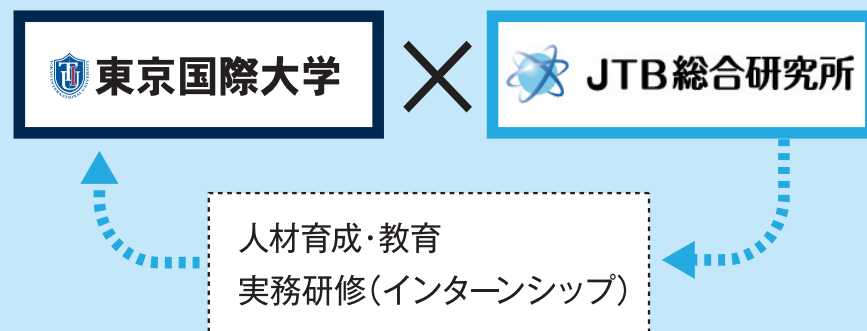
ツーリズムを極めよ。



東京国際大学

JTB総合研究所との産学連携による「観光立国」プログラム始動!

2020年開催予定の東京オリンピックは、日本のツーリズム関連業界にとっても大きなチャンスです。国際関係学部では、旅行、航空、ホテルの各分野の第一線で活躍する実務者から直接学ぶ「産学連携講座」を推進しています。2014年度に開講したJTB総合研究所との産学連携講座では、観光の最新業界動向、観光実務やホスピタリティ、旅行企画づくりのためのフィールドリサーチ、ホテルでのインターンシップなど、将来の進路とダイレクトに結びついた学びを提供しています。なお、この「産学連携講座」は、どちらの学科に所属しても受講が可能です。



■JTB総合研究所とは。

JTBグループの
研究部門(シンクタンク)です。

ツーリズムの拡大と質の転換を基本ビジョンに、「人」、「モノ」、「コト」の交流にグローバルな視点で向き合い、他産業を含む経済全般に与える影響の分析や、消費行動全般の調査・分析、未来動向の予測を通じ、ツーリズムと接点を持つ多種多様なビジネスに貢献しています。

主な業務

【調査研究】

観光地、交通インフラ、ITといったツーリズム産業に関わる調査・研究のサービスを提供します。

【コンサルティング】

戦略策定、アクションプランの実行支援などを中長期的な視点を持ってコンサルティングします。

【事業開発支援】

観光・集客に関わる新規事業立ち上げに向けた、事業開発支援を行います。

実務研修(インターンシップ)

■観光実務研修

JTBグループ会社での旅行業に関するインターンシップで、旅行会社の窓口業務から旅行商品の開発、販売などの様々な仕事について、体験的に理解を深めることを目的としています。



■観光先進地研修

JTB総研の指導の下、課題を抱えた観光地を実際に訪問し、その地での観光開発戦略について体験的に理解を深めることを目的としています。講義科目「観光魅力創造論」「観光マネジメント論」等で学びます。



2020年、訪日外国人旅行者2000万人をめざす日本。
今、ツーリズムに対する深い理解と、国際感覚あふれる人材育成が急がれています。

2013年、訪日外国人旅行者は1,000万人を突破。日本政府観光局は、オリンピックが開催される2020年には、訪日外国人目標を2,000万人に掲げ、呼び込みを行っています。そんな時代背景から、ツーリズム業界は優秀な人材を必要としているのです。



〈訪日外国人旅行者増加の外的要因〉

- 2020年オリンピック・パラリンピック
- 円高の緩和による訪日旅行の割安感
- ユネスコにおける富士山などの世界遺産登録
- 和食の無形文化遺産登録と世界的な和食ブーム
- アジアでの旅行需要の急増

観光系科目がさらに強化されました。

■2014年度新設科目

観光ビジネス論

観光産業は、人を泊める宿泊業、鉄道・航空等の人を運ぶ輸送業、旅行会社、ディズニーランドなどのテーマパーク等、旅行を通じたサービスを行う産業の全体を言います。また、観光旅行目的の他には、出張やビジネス目的の移動も含み、観光地等の現地で受け入れるための仕組みや多くの人々も関わってきます。こうしたビジネス全体の仕組みから観光や旅行について学びます。

観光マーケティング論

旅行会社のツアーやWEBのプロモーションなど実際の事例を用いながら、マーケティング理論の基本や活用について学習し、ツーリズムに関わる企業や組織が、誰に向けて、どのような価値をつくり、どのように提供しているのかを学んでいきます。また一部の授業ではケース・スタディやグループワークを取り入れ、具体例に触れながら理解を深めていきます。

観光魅力創造論

観光を学ぶための基礎、地域を見る力、考える力、計画する力について学び、魅力あるまちづくりとはどういうことかを考えます。観光地としての魅力は何か、それらに必要なマーケティングとは、ブランド戦略とは、どうやって情報発信をするのか等、各地の著名な観光地の事例を素材に、行きたくするような魅力あるまちづくりを皆で考えます。

観光マネジメント論

世界では観光客誘致を政府観光局や観光協会が、鉄道、航空、観光施設等と共同で行い、魅力的な観光地づくりを展開しています。この授業では、日本でも導入され始めた「地域経営の視点から観光地をどのようにマネジメントしていくか」といった手法やその取組みについて、ケース・スタディ等を交えながら学んでいきます。

観光コミュニケーション論

観光や旅行といった商品やサービスは、クーポンやチケットの手配を行った時には、まだ旅行をしていません。自宅を出て、実際に観光地に行ってみて、初めてサービス提供が完結します。旅行をする人に対する正確な情報提供(コミュニケーション)は大変重要です。情報を発信する力、情報を読み解く力等を学ぶと共に、観光の商品やおもてなし等におけるコミュニケーションの重要性について学びます。

MICE 産業論

レジャートラベルとビジネストラベルの違い、欧米・アジアにおいて今後成長が期待される「MICE(=マイス)*」に対する基本的な理解を深めます。MICEは2020年の東京オリンピックを控え、様々な期待が膨らむ新しい産業分野です。現場実務者を招いて最新事例やトレンド等を学び、現場を視察し産業の実際を体感します。

*企業が行う会議やイベント(Meeting)、営業成績のよい社員等の招待旅行(Incentive tour)、サミット等の国際会議(Convention)、モーターショーのような展示会(Exhibition)、オリンピックのような国際的イベント(Event)の頭文字をとって「MICE(=マイス)」とよみます。

INTERVIEW



第一志望の企業に就職できました。

国際関係学部 国際関係学科2014年卒業

大津 祥平さん (株)JTBコーポレートセールス 勤務

就職活動の勝因は早い時期から業界を絞ったことだと思います。大学では国際社会について学び、語学スキルを磨き、また学外ではアジアのストリートチルドレンなどを支援するNGOの活動に参加しました。これらの学業や活動と並行して、旅行業界についての情報を積極的に収集し、進路を具体化していきました。業界を絞ってからは、着実に就職活動の準備を進めていきました。学内の資格講座を受講し、国家資格である「旅行業務取扱管理者」を取得したことはもちろん、実践的な観光系科目を受講し豊富な知識を習得したことが大きな自信となり、第一志望の企業から内定をいただくことができました。